

31 夏目漱石の意識は何点ですか？

「風の強いあの日 重たく曇り空 お別れ 飛行場まで あまえを乗っけてく アクセル踏んずけて やたらイキがって■■■サイレン鳴らしてきた おいらまるシカト」(「あの娘のレター／RCサクセッション」1981年) まだアルバムがLPで発売されていた時代に、歌詞カードには「■■■」に関する注意書きも。「職業差別用語に繊細な感受性をお持ちの方々の御意向を汲みまして、レコードでは割愛させていただきました。なお、ライブでは勝手に使わせていただきますので、御不満のお残りの方はコンサートに来てお楽しみ下さい」ということで、■■■の部分は自主規制がかかり音源は消されています。(一応気になる人のために。教師が先公なら警察関係の方は■■■。ご推察下さい)

この「注意書き」は自主規制を茶化していたわけですが、昨今ではこんな注意書きは、もちろん許されません。こうした流れは人権意識の高まりの成果だと言われていますが、一方で「スーパー・センシティブな人に合わせてたら何も発言できなくなる」という意見もあります。つまり、「ポリティカル・コレクトネス(社会的な望ましさ)」が表現を縛りつけるという危惧もあるわけです。どちらにも一理あるとしか言いませんが、この問題は現代人の「ことば」に関する力(表現力や読解力)の低下がからむせいで、なかなか論じることは難しいです。

ところで、新聞記事(「朝日新聞」2024年3月4日)で知りましたが、若い世代の間では「マルハラスメント」なるものが言われているそうです。「『〇〇しておいて!』だと期待をかけられていると感じるけど、『〇〇しておいて。』だと冷たく突き放されているように感じる」そうです。句点に感情を深読みすることの是非もここでは触れませんが、記事では大東文化大学教授山口謳司教授の言葉「スタンプでのやりとりが普通になり、句読点どころか文字を打つのがハラスメントと言われてしまいかねない」が紹介されています。ネットのコミュニケーションでは文意より即応性の方が優先されるので、数年後はホントウにそうなっているのではないかとも思っています。

繰り返しますが、時に他人の言葉に過敏過ぎる反面、言葉の持つ豊かさや複雑さが理解されていない場面は少なくありません。見るのが字面だけなら、誤解が生じたり、真意が伝わらないこともあるわけです。ラインのやりとりをイメージして下さい。生徒A「あした、みんなでディズニー行かない？」生徒B「いいね」生徒C「アタシも行く！」生徒A「なんで来る？」生徒Cは生徒Aの言葉を「なんであんたが来るんだよ」の意味で受け取り、仲間はすれにされたと誤解するのですが、生徒Aはどのような交通手段で来るかを尋ねただけです。ライン等で見られる言葉遣いの粗雑さが原因ですが、昨今の表現力や読解力の低下を鑑みれば、日常会話の中でも起こりうることだと思います。

さて、現在放送中のテレビドラマ「素晴らしき哉、先生！」の中で、主人公の国語教師が、夏目漱石が英語の授業中に「I love you」を「月がきれいですね」と訳したという話を紹介します。この漱石の意識の話は有名ですが、文献の記録もなく作り話だとも言われています。ただ愛に関するストレートな表現が苦手な日本人を象徴しているせいか、よく広まっている話です。ともかく、英語のテストならまず不正解ですが、国語のテストなら採点者を悩ませるかもしれません。国語力って、難しいですよ。

令和6年10月1日 大村城南高等学校長 中小路尚也